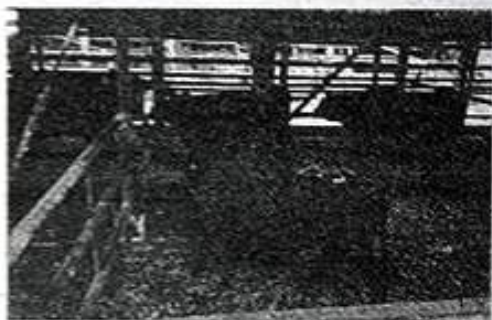


食肉用牛生産に参入

トヨタ牛ファーム



田原第一農場のトヨタ牛ファームの内部



田原第一農場のトヨタ牛ファームの内部

地域ブランドを確立へ

トヨタ牛ファーム(本社高浜市奥竹町、杉浦浩一社長)は、食肉用牛の生産事業に新規参入した。食肉用豚生産のトヨタファーム(豊田市堤本町、織柄雄一代表、電話0565・52・4757)ら3者の代表らが共同出資で同社を設立。2年後をめどに月産10〜15頭の出荷を予定している。将来は、委託農場方式で生産規模を拡大し、地域ブランド牛の確立を目指す。

(豊田・横井清)

事業に参画したのはトヨタファームのほか、飼料輸入販売のケイ・エッチ・エス貿易(KHS貿易、本社高浜市、杉浦浩一社長、電話0566・54・0500)と、空と太陽どうぶつ病院(愛知県東浦町、登丸亨介院長、電話0562・85・0399)。

トヨタ牛ファームは生産だけでなく、土地所有が可

能な農地所有資格法人として、1月に設立。資本金は100万円。KHS貿易が10%、残りは3者の代表が個人出資した。農場運営はトヨタファーム、飼料供給はKHS貿易、種付けや防疫は同病院が担当する。

農場は、田原市の生産者から昨年閉鎖した農場を借り受け「田原第一農場」とした。4月から子牛40頭を肥育している。同農場の肥育能力は約200頭あり、順次増やす。

後継者や担い手不足、食肉相場の高止まりなどを背景に、牛の肥育を断念する農家が増えている。トヨタ牛ファームでは、こうした農場を借り受け、委託生産

方式で取り込む。当面、生産規模を500〜千頭に拡大する。

牛は、黒毛和牛などとの交雑種を主体に肥育する。生産・出荷が軌道に乗った段階で、ブランド化を推進する。地産地消の高品質商品の需要が高まる食品・流通大手をターゲットに、売り込みを図る方針だ。

織柄雄一副社長は「最新技術を導入して効率経営を進め、経験ある労働力や若者の雇用維持・創出にも貢献したい。将来は、6次産業化を視野に多角経営を進めたい」と話している。

碧南市中小企業支援 事業承継

【碧南】碧南市と碧南商工会議所、碧南高浜金融協同会加盟8金融機関などによる連携事業「碧南市中小企業支援機関連発会」はこの師



- 三河支 岡崎市 電話 056 FAX 056
- 刈谷支 刈谷市 11佐藤 電話 056
- 三遠支 豊橋市 佐藤 電話 053 FAX 053